

基幹研究プロジェクト中間評価結果について（総評）

令和元年8月20日

基幹研究プロジェクト評価委員会

議長 木村 茂光

基幹研究プロジェクト評価委員会（以下「評価委員会」という。）は、この度、基幹研究プロジェクトの平成28年度～平成30年度における進捗状況を踏まえて、中間評価を行いました。

この評価に当たっては、各基幹研究プロジェクトの特性や運営の自主性・自律性に配慮しつつ、広領域連携型基幹研究プロジェクト（3プロジェクト）及びネットワーク型基幹研究プロジェクト（8プロジェクト）においては総合人間文化研究推進センターの各推進評議会が作成した評価報告書及び各プロジェクトに対するヒアリングを踏まえ、それぞれの基本計画の達成状況等について評価を実施しました。また、機関拠点型基幹研究プロジェクト（6プロジェクト）においては当該プロジェクト実施機関における外部評価委員会による評価を踏まえ、進捗状況の確認を行いました。

今回の評価では、広領域連携型及びネットワーク型基幹研究プロジェクトにおいて、6段階判定で評価を行いましたが、全体として順調に進捗しており、質的・量的側面からも十分に成果が出ていると認められます。また、機関拠点型基幹研究プロジェクトにおいても、全てのプロジェクトで順調に進んでいるとの評価結果になりました。全プロジェクトの構成メンバーの努力を高く評価します。

一方で、評価に際し、研究の進め方等に対して、いくつか意見が出されていますので、その点も参考にして、今後のプロジェクトを積極的に推進されることを期待します。

最後に、評価委員会において、プロジェクト全体について議論があった点を記しますので参考にしてください。

1. 全プロジェクトとも3年間の経験と成果を踏まえ、格段に成果が上がっていると評価できます。プロジェクト内の各班（ユニット）がその目的に合わせて、シンポジウム・研究会を通じて成果の発表や社会・国際貢献を積極的に進めていることは、プロジェクトの成功に向けて力強く思います。ただ、1つのプロジェクトが中止され、かつ班の主題を変えたプロジェクトが出るなど、最終年度の目標達成に向けてやや不安な材料も出てきているのは残念です。これまでの成果を踏まえ、プロジェクトの目標達成に一層努力してほしいという意見が強く出たことを申し添えます。
2. 1のように成果が上がっている一方で、前回は指摘しましたが、各班の独自性が目立つようになり、プロジェクトの全体的な目標が見えにくくなったプロジェクトもあるという意見がありました。そのような中で、最終年度の成果発信に向けて、プロジェクト全体に関わる講座的な著作物の刊行、プロジェクトの成果をわかりやすく発信するための教科書等の編集に取り組んでいるプロジェクトが出てきたことは高く評価できます。

総括班などを中心にプロジェクト全体の成果の発信に向けて具体的な計画を早急に立案してほしいという意見が多く出されました。

広領域連携型及びネットワーク型基幹研究プロジェクト 評価結果	
判 定	分 布
順調に進んでおり、 質的・量的側面から特筆すべき成果が見られる	4プロジェクト (36.4%)
順調に進んでおり、 質的・量的側面から十分な成果が見られる	6プロジェクト (54.5%)
順調に進んでいる	1プロジェクト (9.1%)
一部遅れが見られるものの、 質的・量的側面から特筆すべき成果が見られる	0プロジェクト (0.0%)
一部遅れが見られるものの、 質的・量的側面から十分な成果が見られる	0プロジェクト (0.0%)
一部遅れが見られる	0プロジェクト (0.0%)